



あきたの 地域医療通信

2019年9月 第34号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医療人材対策室



秋田県のへき地で、「地域包括ケア」の理想を体現する西明寺診療所所長の市川晋一先生に地域医療についてお話を伺いました。

Q1. 先生が医師を目指したきっかけ、地域医療に興味を持ったきっかけは？

A. 小さい頃から読書が好きで、シュバイツァーらの偉人の伝記などを読んでいたうちに、医師になりたいという気持ちが芽生えてきました。その後、高校生の時に、農村医療を提唱実践されていた佐久総合病院の若月俊一先生の著書「村で病気とたたかう」に感動し、地域医療への思いを強くしました。

Q2. ご出身は兵庫県姫路市ですが、秋田県に来られたきっかけは何でしたか？

A. 高校を卒業した後、3年間浪人をしました。ようやく合格できたのが秋田大学医学部でした。当時から秋田大学は、多浪生でも外国人でも公平に合格者を選ぶ大学として知られていました。自分を受け入れてくれた秋田に感謝と恩返しのできる気持ちで、秋田に残って農村医療を目指すことにしました。

Q3. 泌尿器科を専門にしたのは？

A. 最初は内科系を目指していましたが、しかし、学生実習の時に手術室での「緊張と緩和」を体験してから、外科系に決めました。泌尿器科は、大学時代に泌尿器科で血液透析を目の当たりにして、衝撃を受け、腎臓や泌尿器に興味を持ったのが始まりです。また、診断から治療までを自分で、一貫してできることにも魅力を感じました。

Q4. その後、仙北組合総合病院(現大曲厚生医療センター)に勤務され西明寺診療所に来られましたが。

A. 病院時代に、訪問診療で患者さんの生活の場に踏み込む機会が増えました。そこで暮らしを支える介護の必要性を痛感し、「福祉と行政が連携できる医療を行いたい」

と思うようになりました。当時、西木村役場では、介護保険制度のスタートを受けて「医療と福祉をコーディネートできる医師」を探しており、お互いの思いがマッチして、こちらへ来ました。



西明寺診療所・桧木内診療所 所長
市川 晋一 先生

【プロフィール】

兵庫県姫路市出身。秋田大学大学院修了、医学博士。仙北組合総合病院(現大曲厚生医療センター)泌尿器科科長を経て、2000年4月から西木村立(現仙北市立)西明寺診療所・桧木内診療所 所長。主な著書は医心伝心〜ちんちん先生のカタクリの里診療所日記〜など。その他、講演、テレビ、ラジオ新聞、雑誌へ多数出演。

Q5. 昨今、地域医療という言葉が多く出てきますが、具体的に地域医療とはどういうことでしょうか？

A. 地域医療の定義は、「住民の健康維持や増進を目的に医療機関が主導し、行政と住民、企業などが連携する総合的な活動」です。具体的には、疾病の治療と予防、退院後の療養と介護など幅広い分野にわたります。

Q6. そうした中で、地域包括ケアシステム構築への取組が思うように進まないという声も聞かれますが、先生はどのように思われますか？

A. 地域包括ケアというシステムは、都市部の中学校2学区程度の範囲を考えており、実は秋田県のような田舎は想定していないんですよ。日本全国でうまくいっていないのは、多くは行政が補助金を出して民間に丸投げしているからだと思います。

西木地区は市立の診療所と多職種と行政がうまく連携できています。ある時、おばあさんが腹痛を訴えてやってきました。診察後、胃潰瘍等が疑われたので救急車を呼び、市立角館総合病院に運ぶことにしました。しかし入院に必要な身元保証人がおりません。困った私は、市役所の地域包括支援センターに連絡をして、保証人となることと病院への付き添いを依頼したところ、ただちに快く引き受けてくれました。最終的には、県外の親戚へ連絡してもらい、引き受けてもらいました。これは行政と医療機関の連携が取れており、地域包括ケアシステムが完成している一つの例だと思っています。

Q7. 他の地域は今後どうすればうまくいくと思いますか？

A. 行政の協力なしには成り立たないと思います。また当地区は小単位だからうまくいっているということもありますが、小さな事例を積み重ねることによって、大きな事業もうまくいくようになるのではないのでしょうか。

Q8. 次に若いうちに取り組んだ方がいいこと、体験しておけば良いことなどはありますか？

A. 一つの病院だけではなく、大きな病院、中小の病院など多くの病院で研修して、いろいろな経験を積むことだと思います。

Q9. 医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. 医師は多能です。つまり、いろいろな職を選ぶことができ、普通の医師、大病院の医師や研究者、警察、行政にも入ることができます。その中で、田舎で医師をすることも選択肢の一つです。若い時、私は診療に追われ、人生を振り返ることがありませんでした。みなさんも目の前のことに一所懸命で、余裕がないかもしれませんが、若い時、中堅の時、高齢になった時に自分がどういう医師を目指すか、将来を考えて欲しいと思います。

Q10. 先生は、医師のキャリアモデルですね、最後に先生のこれからの目標は？

A. 体の続く限り、今の医療を続けていくことですね。患者さんの笑い声を聞きながら診察ベッドで亡くなるのが理想です。あっ、それだとみんなびっくりするか！

先生にいきなり倒れられたら、みんなが困ってしまいます！まだまだ頑張ってください！！市川先生ありがとうございました。



仙北市西明寺診療所

秋田県職員医師を募集しています

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。**勤務期間は4年間で1単位**

- ・3年間は県内の自治体病院等に勤務
 - ・残りの1年間は希望する医療・研修施設において、有給の研修・研究が可能
- ご連絡いただければ、直ちに資料をお送りします。

お問合せ 秋田県健康福祉部医務薬事課医療人材策室

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

TEL : 018-860-1410 FAX : 018-860-3883 E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp

指導医講習会を開催しました！

今年も7月5日(金)～6日(土)の2日間、大瀧村のホテルサンルーラル大瀧を会場に「第16回医師臨床研修指導医ワークショップ」を開催し、国立国際医療研究センター医療教育部門の村岡亮先生、中京大学法務総合教育機構の稲葉一人先生、宮崎大学医学部(地域医療・総合診療医学講座)の吉村学先生などからご講義いただきました。また、参加者は積極的なロールプレイ等を行い、指導医として磨きをかけ、夜の交流会では、日頃の診療などについて情報交換も行われました。



地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナーを開催しました！

8月24日(土)に、自治医科大学生、東北医科薬科大学医学部生、秋田大学医学部生及び県内で活躍する自治医科大学卒業医師等を対象とするキャリアアップセミナーを開催しました。

第1部の講演会では、埼玉県の国民健康保険町立小鹿野中央病院長内田望先生に「なぜ医者になろうと思ったの？～地域にとろけこんでみた～」と題してご講演いただきました。

第2部のグループ討論・発表会では、「住みやすい「まちづくり」のために地域医療が果たす役割」、「地域医療の魅力を伝える」をテーマに討論し、様々な意見が出されました。

また、第3部の情報交換会では、食事をしながら医師と医学生が、病院や大学、世代の垣根を越えて地域医療について話し合い、大変有意義なセミナーとなりました。



イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
10月	6日(日) レジナビフェア 2019仙台	医学生	仙台国際センター 展示棟展示室(仙台市青葉区)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 MAIL:ishikakuho@pref.akita.lg.jp
	25日(金)～ 26日(土) 第13回レジデント スキルアップキャンプ 2019	初期研修医	サンルーラル大瀧 (南秋田郡大瀧村)	

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科 放射線医学講座 放射線診断科・放射線治療科

放射線医学は、放射線診断と放射線治療の二つの分野から成っており、臓器横断的な診療科として、秋田県の放射線医療の中心的役割を担っています。

放射線診断部門では、CT、MRI、核医学検査などの検査の実施ならびに診断レポートの発行、インターベンショナルラジオロジー (IVR:画像下治療) による悪性腫瘍、外傷、血管病変などへのカテーテル治療、CTガイド下のドレナージや生検、甲状腺のヨード内用療法などを行っています。県内の複数の病院と連携した遠隔画像診断も提供しています。

放射線治療部門では、悪性腫瘍や一部の良性疾患(ケロイドや良性腫瘍など)に対する放射線治療を提供しています。強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(STI)、画像誘導下放射線治療(IGRT)などの高精度放射線治療、前立腺癌に対するシード組織内刺入や子宮癌に対する画像誘導下腔内照射(3D-IGBT)などの小線源治療も行っています。

今後も技術の進歩とともに、放射線医学の必要性はますます高くなることが予想されますが、秋田県内の放射線科医数はまだまだ少ないのが現状です。秋田県の医療の質の向上、癌死亡率の低下に寄与すべく、毎日の臨床や教育に力を入れてまいります。



問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科
放射線医学講座
講師 石山 公一
e-mail : kishiyam@doc.med.akita-u.ac.jp
Tel : 018-834-1111 (病院代表)

指導医メッセージ

大館市立総合病院
小児科

丹代 諭 先生



小児科医でありながら、救急医療にどっぷりはまっている異端児の丹代です。もともとプライマリケアのしっかりできる医師になりたいと思って医学部に入学しましたが、当時弘前大学には救急科がなく、救急医学についてよくわ

からないまま医師1年目になりました。当時は半年大学で勤務して、すぐに一般病院で一人で当直することが普通でした。そこでは、救急搬送された患者さんが突然の心停止になりパニックになったり、けいれんを起こした子をみて、迷走神経反射を起こして一緒に意識障害になってみたり、散々なスタートでした。そんな自分でも救急学会などに参加して、全国の救急医の姿に感銘を受けたり、積極的にシミュレーション教育を受けたり、救急関連の雑誌や教科書などを読み漁ったりして、今では救急室長、メディカルコントロール委員、災害コーディネーターなどを任されるようになりました。目標があれば、無限の可能性があると思います。皆さんも自分の理想の医師を目指す思いを忘れなければ必ずなれると信じています。

研修医メッセージ

中通総合病院
永井 友仁 先生
(東北大学・岐阜県出身)



秋田に来てから早くも4か月がたちました。私が初めて秋田に来たのは5年生の夏でした。石巻赤十字病院の小児科の先生に「見学に行くといいよ」と勧められて来たのが最初で、実際来てみると研修医に大切な力がつく、といった印象でとても気に入りました。研修担当の方も医師、看護師などのスタッフの方もとても温かく迎えてくださ

りほとんど最初の見学で中通総合病院に決めていました。そんな私から中通総合病院のプログラムの特徴をいくつか。まず、なんといっても救急のプログラムの手厚さです。外科と内科に分かれておりいつでも不安な時は上の先生に相談することができます。他には内科がまとまっていて、いろんな科同士のやり取りが間近でみることができるため総合的な力が身に付きます。2年目には7か月自由に科を選んで回れるので専門的知識も十分につけることができるのも魅力です。と、挙げればきりがありませんので、是非一度見学に来てみてください。

MESSAGE



大曲中通病院

〒014-0062 秋田県大仙市大曲上栄町6-4 TEL : 0187-63-2131 HP : <http://www.meiwakai.or.jp/omagari/>

当院は昭和42年7月、大曲の花火会場に程近い大曲上栄町に開設しました。「医療と介護の融合」をコンセプトに、外来・入院の一般診療はもとより、救急医療、健診・人間ドックなどの予防活動、在宅医療、通所・訪問リハビリテーション、ショートステイなど、医療から介護、福祉まで一貫したサービスを提供しています。また、中通総合病院の臨床研修協力施設として、研修医の育成にも力を注いでいます。

病院機能の棲み分けが比較的確立されている大仙・仙北医療圏において、当院は一般病床60床、療養病床46床の圏内唯一のケアミックス病院として、地域で不足している急性期から回復期の一般医療と、高齢者を中心とした長期療養患者の慢性期まで一貫した医療を展開できるのが強みであり、最大の特徴です。

今後、この地域は人口減少、高齢化がますます進行すると予想されています。地域の変遷はあっても、これまでと変わらず、「いつでも、どこでも、だれでも、患者さんの立場に立った親切で信頼される医療」を追求し、地域に根差した医療を展開していきます。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医療人材対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410